

和合

No.96
2013.12.20

題字：三浦修次



主な掲載記事

和合ってどんなところ.....	2
ふるさとを想う.....	2
年中行事（行事食）.....	3
和合の里のお地藏様.....	3
老いないために.....	4
和合の交番.....	4
亀治からのメッセージ.....	5
せんせいあのね！.....	6
私の健康・健康レシピ.....	7
地域インフォメーション.....	8

びつぐがなあ〜？

和合ってどんなところ



余目第四小学校
金子 舞 先生

四小・和合地域は、私の教師人生のスタート地点である。山形市で育ってきた私は、庄内地方初上陸。知らない人ばかりの土地でやっていけるのか…と、不安でいっぱいだった初年度、いろいろな意味で衝撃をうけた。（ここではいい意味の方を書く）

まず、子どもたちが明るくエネルギーにあふれていた。まっすぐにのびのびとそだってきたことがわかる。それに、どんなおとなしい子にも、芯の強さやたくましさがあった。厳しい風にも負けずに体と心を育ててきたのだとわかる。そしてやはり一番の衝撃は、家庭の、地域の“熱さ”である。わが子を思い大切にする気持ちはもちろんのこと、同じ学年・地域の子もわが子のように気かけ声をかけてくれるお家の人たち。見守り隊や畑の先生のお願いをすると、一生懸命にこたえてくれる地域の人たち。こんな大人に囲まれていれば、それはいい子に育つわけだと納得したものだ。

ここでスタートを切れたことは、自分にとって本当に幸せなことだと思う。

反面、「次のところでやっていけるかなあ。」という新たな不安が生まれてしまった。

和合ってどんなところ？と聞かれれば、「もうちょっとここにいたいなあと思えるところ」かな？

ふるさとを想う ～ 寄せられた、“ふるさと”より～（後編）

- ・18歳まで過ごしたふるさとの四季、日々の生活は鮮明に思い出されてくる今頃、私だけなのか…… 65歳になった年齢がそうさせるのか。ふるさとがある事に感謝して。
- ・ふるさとの良さは離れて気付かされる。平野から見える四季折々の鳥海山や月山の眺めは、心に深く刻み込まれている。最近残念に思うのは、休耕田が目につく事である。先人が長い年月努力して作り上げてきた肥沃な耕地を活用し、新たなる発展を願ってやまない。
- ・「ふるさと」は“いつまでも美しくいて欲しい”と思うのは、すべての人たちの願いである。ふるさとを離れて50有余年、ふるさとの自然は、変わらずに私たちの帰りを待っていてくれるように感じている。
- ・自分の中に流れる「庄内人」を意識してしまう。変わってほしくない「ふるさと」の自然や人情、私はそれを大事にしたいと思っている。
- ・当時の地域の方々や先生の苦勞と愛情が感じられる。庄内の自然の豊かさに気付かされる日々である。
- ・幼少時代の厳しい自然で培われてきた不屈の精神で粘り強く現実に向き合わなければいけない。何しろ冬になると雪が降りつもり地吹雪の中、学校に行くには歩くしかなかった。この年になってゆとりが出来て田舎の思い出に浸っている。

【昔の思い出がなつかしく、そして心に刻まれている。変わって欲しくない風景と自然の豊かさ、そして人々のあたたかさが和合の里を離れた人たちの願いであり、この地に住む私たちが守っていかなければいけないのだと感じた。】

おぼろの年中行事

●すす払い(はらぎ)(十二月)

正月を迎える師走の行事。歳末期の大掃除。もともとは一年の汚れを払い清めるといふ一つの信仰にもつながる行事であり、家の中がきれいにするつもりとした気分が新年を迎えるという習わしである。

●七草粥(一月)

春の七草は、一般的には「せり、なずな、ごぎょう、はこべら、ほとけのざ、すずな、すずしろ」で、初春の植物を食すことで若返りや無病息災を祈願したものである。

一月七日の節句で、三月三日や五月五日などが並ぶ五節句の一つ。「人目の節句」という。

調査によれば、各家庭で行われ方に差が大きく、粥ではなく雑煮を食す家庭が多い。

〔余目町の民俗年中行事より抜粋〕

★鶏あんべ★

《材料》

・いもがら(干したもの)…適量 ・糸こんにゃく ・うす揚げ
・とり肉 ・しいたけ ・ゴボウ ・にんじん ・ねぎ

【準備しておくこと】 ・いもがらは水でもどしておく

【作り方】

- ① もどしたいもがらを1cm位に切る。
- ② ゴボウやにんじんは半月か、ささがきにする。
- ③ 他の材料も好みの大きさに切る。
- ④ 材料をそれぞれゴマ油でいため、他の調味料を加え、煮付ける。
- ⑤ 味を整え、最後にお好みでねぎを加えると風味がよくなる。

《調味料》

- ・しょうゆ
- ・だし汁
- ・みりん
- ・ゴマ油
- ・さとう

昔は、肉を食べることが少なかった。正月は自宅で飼育していたニワトリを収穫していた野菜と食したといわれている。

和合の里のお地蔵様

赤瀨新田編

〈語り手〉石井 豊さん



イラスト：工藤昭子

大和地区内8部落の歴史に残る開村の記録は、赤瀨新田は7番目に開村され、初め、南野村の西方の赤瀨村に位置し、一六四四年に最上川の流が改良後、一九五五年に藤原村が開発されて、そこに赤瀨村の人々が移住し、赤瀨新田が開村されたといわれている。

部落の外れに鎮座する二体の地蔵様はいつ頃から祀られていたのかは不明であるが、一九二四年現在地に移転されたようである。

常日頃参拝されることもない地蔵様に対して、近隣の方々が恒例の祭典を行う為に「地蔵様祭り保存会」を立ち上げ、一九七七年には老朽化した「お堂」を部落民の寄付により再建したとの事です。

現在では六月二四日の「地蔵様祭り」には、お神酒・赤飯・串こんにゃく・お菓子等をお供えし、お参りし、お神酒をいただき、子どもたちはお菓子や赤飯を食するという行事を現在まで続けております。

正面より向かい右が「延命地蔵」左が「子宝地蔵」言い伝えられており、子どもの授かりや安全祈願、村民の長寿を願いつつ、これからも続けて行くことが大切と考えております。



〈聞き手〉富 樫

“とし” とっても、老いないために!!

40代から要注意! ロコモ(ロコモティブシンドローム)

40才を過ぎた頃から骨・筋肉・関節の機能は衰え始めますが、特に下半身の筋肉の衰えにより、「立つ」「歩く」といった動作が困難になった状態をロコモ(ロコモティブシンドローム)といいます。

◎ロコトレ(ロコモーショントレーニング)をはじめましょう

1. バランス能力アップ……片脚立ち 左右各1分間ずつ 1日3回

・机やテーブルなどバランスを崩した際にすぐつかまれる物の側で行いましょう。支えが必要な時は、机やテーブルに手を置き支えながら行います。

- ① 背筋を伸ばして立ち、しっかり眼を開けたまま床から約5cm片脚を浮かせます。
- ② 1分間その姿勢を維持します。
- ③ 脚を替えて繰り返します。



2. 下肢筋力アップ……スクワット 息を止めずゆっくり5~6回 1日3回

・安全のため椅子やソファの前で行いましょう。支えが必要な時は、椅子に腰掛け机に手をつき、腰を浮かす動作を繰り返します。

・膝を90度以上曲げないようにしましょう。

- ① しっかり眼を開け、肩幅より少し広めに足を広げ、爪先を少し外側に開いて立ちます。
- ② 膝が足の人差し指の方向を向くように、椅子や洋式トイレにすわる要領でお尻を引くように体をしずめます。膝が爪先より前に出ないようにします。



◎高齢者総合相談窓口(介護相談・心配事などお気軽にご相談ください)

●庄内町地域包括支援センター

(介護センターほほえみ内) TEL 45-1030

●庄内町地域包括 立川サブセンター

(庄内町役場立川庁舎内) TEL 51-2505

和合の交番



冬道の安全運転5則

1. スピードは、夏場より10キロ以上減速する。
2. 車間距離は、路面乾燥時の2倍以上とする。
3. 急加速、急ブレーキ、急ハンドル等の急激な操作を避ける。
4. 視界不良時は、前方をよく見て早めに徐行する。
5. 危険がいっぱい。追越しはしない。

★交通事故防止のためしっかり守りましょう。



雪害事故の防止のために、早めの準備をお願いします

毎年冬になると、積雪による転倒、屋根等からの落雪や雪下ろし作業中の転落事故などが発生しています。冬期間の雪害事故を防止するため、本格的な降雪が始まる前に、除雪用具などに不備がないか早めに確認しましょう。また、雪下ろしの際には命綱やヘルメットをしっかりと使用し、安全に作業するようにしましょう。

昨シーズンの雪害事故による人的被害は…

166件発生 14人死亡 153人負傷

原因として、「雪下ろし中の転落事故」が死者6人、負傷者88人と最も多く、次いで「屋根からの落雪による事故」、「除雪中に川等に転落」、「除雪機に巻き込まれ」となっています。

亀治からのメッセージ

亀ノ尾の里資料館

●常設展〈冬の展示〉「わら仕事・冬の民具」開催中

今年も残りあとわずかとなりました。一年は早いもので、今年度の2回目の企画展「阿部亀治と亀ノ尾」も、多くの皆さんにご来館いただき終了することができました。ありがとうございます。

さて、資料館では14日（土）より常設展〈冬の展示〉「わら仕事・冬の民具」を開催しています。農家の冬仕事の様子やわらで作られた製品（わらぐつ、みの、むしろ、ばんどり、たわら、せんべし……）などなど、冬に使われた道具をたくさん紹介しています。手仕事で作られたぬくもりのある「わら製品」は、寒い季節に心を温かくしてくれます。この展示は、2月9日（日）まで。この機会にぜひご来館下さい。

道具図鑑

●馬そり：そりは、土・雪・氷などの上を滑らせて人や荷物などをのせて運ぶ運搬具。「そり」の語源は、反り曲がっているからとする説、雪上を摺り行くからとする説がある。馬そりは、一月下旬から二月中旬まで積雪を利用して田んぼに堆肥を運ぶ「肥引」に用いられた。豊作を祈りながら、春の田起こしに備えた。



蓋として「せんべし」をかぶせてわら縄でしばったもの。農家の冬仕事として一人前の男は一日に10俵、せんべしは100枚編んだ。江戸時代までは、俵の容量は地域ごとに異なっていたが、庄内では4斗俵（60kg）が使われた。

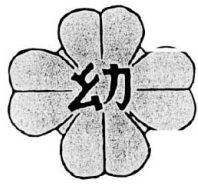


●俵（たわら）：米、麦、大豆、塩、木炭などを貯蔵・運搬するためのわら製の入れ物。米俵は、わらを織った菰（こも）を円筒状に縫い合わせ、左右から

※現在、資料館でどちらも展示しています。ご覧ください。

亀治の目

冬、吹雪と闘いながら最も寒い時期に行われる「肥引」作業。大変な作業であることは間違いないが、雪が解けてぬかるんだ田んぼに大量の堆肥を運ぶのは難しい。「肥引」は、雪で固まった地面の上をそりを滑らせて堆肥を運ぶとても効率的な作業なのだ。昔の農作業はみんなが協力しなければできない。田植え、稲刈り、ひけし、わら仕事、どれも人手を必要とする重労働だ。苦労があるから人の気持ちがわかる。大変さがわかるから寄り添える。たわいない会話から人と人のつながりができる。そんな温かさを感じる。今はインターネットや携帯電話でいつでも誰とでもつながる気持ちを共有できる便利な時代のようにもスマホ片手にいつも下を見ている人たちに会話は無い。



よつぱっこ通信 第四幼稚園

～ほかほか新米おにぎりパーティー～

せんせい、あめね!

～もう1つの冬支度～

T (先生)

「きょうは、ちゅういっぶの球根を植えよう。

寒くなってきたから、球根もあったかい土のお布団でお休みすると、春になったとききれいな花が咲くんだよ」

じっと聞いていたA男君は、「球根さんをあつためてやろっと!」と、そっと自分のジャンパーのポケットに入れていた。(優しい気持ちに、心もあつためてもらったよ)



実りの秋 美味しいものがいっぱい。幼稚園では、イチジクジャム、焼き芋、人参ケーキ、大根おでんなど、畑で育てた野菜を収穫して、ミニクッキングをして、食べることも楽しんでます。

実りの秋といえば、新米が出てお米のおいしさも格別。「子ども達に新米を食べさせたい!」と届けていただき、さっそくおにぎりパーティー。

♪炊きたてごはんは 湯気がたつ あついごはんが さめぬうち ごま塩パラパラ ふりかけて～
中の具は、子ども達の好きなものを選んで、小さな手でギュッ!ギュッ!に握っているうちに、みんな笑顔がほころんでくる。「わたしは梅干し!」「ぼくは、こんぶ!!」「ぼくはやっぱり鮭だな!」と、楽しそう。

自分で握ったおにぎり、子ども達も手伝った“イモ汁”で「いただきますーす!!」「おいしい!!」「おいしいね!!」新米のおいさと自分で握ったおいしさが、ふんわりあったかな気持ちにしてくれました。「ごちそうさまでした。」

～四小っ子～ 第四小学校

～もつとあそびっでけー!～



6年生は社会科で「長く続いた戦争」の学習だった。戦争経験がある祖父母のみなさんに、いろいろな質問をしていた。3年生は季語の勉強をしてから、合作で素敵な俳句作りをした。コマやけん玉、リム回しにペッチ、ゴムとび、お手玉、かるたなどのコーナーを設け、楽しく遊んだ1、2年生。「ごごはこうすんな!」「ほれ、やってみれ!」とおじいちゃん、おばあちゃんから昔遊びの特訓中。思うようにできない子どもたちにも優しく教えてくれていて、一緒に笑顔になっていた。

孫親学級は、基本的習慣作りのために、しつけの大切さを「教育、今と昔は……」と題し、校長先生のお話だった。会津藩「十の掟」から「ならぬものはならぬものです」になぞられて、村山弁で「さんねものはさんねなだ」など……熱心に聞いていた。大変好評で親の世代にもぜひ聞かせてほしい……。という声も聞かれた。

私の健康

日下部 幹夫さん(前田野目)



私は、健康法は特別におこなっていません。農家には定年制がなく、身体の続く限り退職はない。春の種まきから秋の刈り取りまで、その間畑仕事、冬は雪かき…これだけで特別に何もしなくても運動は十分すぎる。

私はこの歳まで風邪薬以外の薬を飲んだことがなく、もちろん手術も入院もした経験がなく、じょうぶな方で健康などごく当たり前のこととっていました。ところが今年のお盆前、歳甲斐もなく盲腸になり、手術と入院するはめになった。わがままな私にはたった四日間の入院生活が長く感じ一時も早く家へ帰りたかった。この時初めて健康の大切さと健康生活の有難さを知った気がしました。冒頭に、特別な健康法などやっていないと申し上げましたが、新聞やテレビなどで認知症が多くなっているという報道を聴き、あの病気にはなりたくないということで「ボケ」防止のために、68歳からパソコンに挑戦した。第三公民館でおこなっているパソコン講習会に入門しようかと思いましたが、この歳では、若い者についていく勇気もなくテキストを手当たり次第買い求め独学で覚えた。私ども昭和一桁生まれには、横文字が苦手で苦勞の連続でした。最初は文章づくりさえ出来れば良いと思って始めたが、年賀状もやってみたくなる。年賀状といえば当然のことながら写真がつきもので、若い頃からいじくっていたことから、カメラには目がない。デジカメで撮影し、パソコンに入力し編集して印刷する。写真は奥が深いだけに面白い。パソコンの範囲は非常に広く、現在はインターネットに凝っている。

人間の「脳機」は潤滑油をたっぷり入れて常に動かさないと「ボケ錆」？が付いて動きにくくなる。力仕事は、若い人たちに当然かなわれないが頭脳だけはあまり離されたくないと思っている。

健康レシピ ～ビビンバ丼～



◎材料 (6人分)

豚もも挽肉	150g	
ほうれんそう	90g	
もやし	120g	
にんじん	60g	
ぜんまい	120g	
A {	おろしにんにく	5g
	七味唐辛子	少々
	ごま油	少々
	しょうゆ	25cc
	清酒	少々
	砂糖	5g
うす焼き卵せん切り	50g	
いりゴマ	10g	

◎作り方

- ① ほうれんそうはゆで、3cmの幅で切る。にんじん太めのせん切り、もやしとゆで、冷ましておく。
- ② 豚もも挽肉、ぜんまいをAの調味料で煮る。
- ③ うす焼き卵をせん切りにしておく。
- ④ ②のぜんまい、挽肉煮のあら熱がとれたら①の野菜、いりゴマを混ぜ合わせる。
- ⑤ 皿にご飯を盛り④をのせて、その上にうす焼き卵をのせて出来上がり。



簡単に作れますよ～♪

地域インフォメーション!!

“おかげさま”…は感謝の気持ち!

第四学区老人クラブ連絡協議会の研修会がおこなわれ、約60名ほどの会員が集まった。狩川冷岩寺の住職今野悦次氏の「伝える 霊魂と日常仏事作法と意味」の講話だった。

この第四学区の“和合”の名称のすばらしさや、四世帯が多い地域であるとともに、習い事が多く忙しい子どもたちではあるが、車の運転ができるおじいちゃん、おばあちゃんがいる。見守り隊であったり、地域みんなで子どもたちを育てている、恵まれた環境であり、人とのつながりが感じられる“和合”だと話す。

そんな中で最近ではさまざまな時代の流れとともに「一人で最後を迎えたい」と望んでいる人が増えているという……。家族とのつながりや人と人とのかわりが出来ない。言葉で上手く伝えることができない、のだという。何がいいのか悪いのか、作法や迷信についてもその土地柄によって違う。

後期や後世に伝えるためにも、協力しあって、支え合って伝えていかなければならない“意味や気持ち”が伝わる”ということ、いつも感謝の気持ちを忘れずに、生活して欲しいとの話があった。



“丹精こめて”



和合秋香会会長（三浦修次さん：福島）は話した。来年もホールいっぱいに咲き誇る【大輪の花】を心待ちに、寒い冬を迎える。

和合秋香会による「和合の里秋まつり菊花展」が11月5日から7日まで四公ホールにて行われた。

今年、10回目となる菊花展は総出品店数178点、見事な菊花がホール一面に咲き誇った。その中から厳選なる審査のもと、各賞が決定し表彰が行われた。山形県知事賞に輝いた土田善男さん（堤新田）の菊花は真っ白色な大輪で、花びら一枚一枚に愛情と優しさが感じられた。「華麗に咲き誇る【国華】を育てることが健康を保つ一因であると思う。秋の花の色が色づく頃になると、春からの苦勞も喜びに変わる。」という。花言葉は、一般的に「高貴」であるが、まさに上品でどの菊花も作り手のまごころが感じられた。

「より多くの方から観覧いただくことを何よりの励みとさせていただいているところです。」と和

～優秀花特別賞～

- ・山形県知事賞
(一般花厚物第一位)
土田 善男 (堤新田)
- ・庄内町長賞
(一般花厚物第二位)
梅木 宏輝 (廻館)
- ・余目第四公民館長賞
(一般花厚物第三位)
奥山 利康 (古閑)
- ・庄内たがわ農業協同組合長賞
(一般花管物第一位)
相馬 正子 (廻館)
- ・和合秋香会会長賞
(競技花厚物第一位)
工藤 恒夫 (古閑)
- ・和合秋香会会長賞
(競技花管物第一位)
三浦 修次 (福島)

編集後記

今年も冬がやってくる。……
そう思いながら、今日はなんて穏やかな日なんだろう！窓の外を見ながら、一年を振り返る。

「月山のとっぺんさ登りっでけー！」「ざっこしめでから、こんなにやく食べだ〜」「秋まつりで、お手玉教えでもらったー!!」「グラウンドゴルフ一緒にやったおじいちゃんとおばあちゃん!!」子どもたちの元気な声が耳に残っていた。優しい気持ちになれた。

また春になると、もっと多くの出会いとふれあいがある。信じてほしい。いらするな、くよくよするな、ぎすぎすするな。おおらかに、おおらかに……。【この言葉を心に……】